

講演会『古写真でたどる宮島 写真に見える宮島』を聴いて

2025.3.29 作成 森

3月4日に阿品市民センターで首記題名の講演会が開催されたので、興味本位で参加してきました。写真をスクリーンに映しながらの説明で講師の話を聞き流す形になり、誤解もあるかと思いますが、脈絡なく一部だけご紹介します。

開催日時：3月4日（火）10時～11時30分

開催場所：阿品市民センター（参加者40～50名程度 主催者の予想以上の参加）

演題/講師：「写真に見える宮島」 宮島歴史民俗資料館 山下 智美 氏

I. 講演内容の一部紹介（写真をスクリーンに映しながら説明がありました）

- ① 1960年代に有之浦海岸通りに火の見やぐらがあった。
- ② 現在のetto交流館の場所には、以前、観光会館と町（厳島町）の庁舎があった。
- ③ 1971年には、商店街に衣料品店、日常雑貨店があった。
- ④ 1970年代には、滝町への通りは格子の家並みがあった。
- ⑤ 1960年代には、存光寺の前の通りには病院や醤油店などの看板が多数あり、道を跨ぐ上方には「諸車徐行」の看板があった。
- ⑥ 1948年に西の松原で清盛神社の鳥居を立てる工事をしている。
- ⑦ 大正時代の絵葉書に大鳥居と石鳥居が写っているのがあり、これは瀬田薬局の先々代がとったもので、この時代には石鳥居にも扁額があった。
- ⑧ 時代は不明だが、岩惣の前にほぼ5m四方の敷物の上にマツタケが敷き詰められていた。金を払って鑑札？を買い、誰でも取りに行けた。（住民と島外の人では金額が違っていた）
- ⑨ 昭和25年11月3日に町名が「厳島町」から「宮島町」に変わった。これに伴い「厳島中学校」も「宮島中学校」に変更された。この頃は宮島に進駐軍がいて、中学校で英語を教えていたので、中学生の英語のレベルが高かった。
- ⑩ 日清・日露戦争の戦利品の錨が浜（どこか聞き漏らした）に展示されていて、東郷平八郎書「平和の錨」の文字が埋め込まれていた。枕崎台風の被害復興時に埋められたらしい。
- ⑪ 弥山山頂の展望台の第一号は、大岩の上にまたがる様にステージが作られ、階段が設置されていた。
- ⑫ 昭和30年ころは、神社の白い馬が1月7日に各家庭を回っていた。
- ⑬ 神社では、春に桃花祭と秋に菊花祭があり、「潮能」（能）をやっているが、島内の人はうたい、鼓、笛などができる人がいて、出演していた。（島内の人の教養の一つだった。）
- ⑭ 今年は旧暦の閏月が6月にあり、38年ぶりに管絃祭は二回行われる。7月11日と8月10日で、8月10日は居管絃祭で船は出さない。（旧暦では1年は354日で、3年に一度13カ月＝閏月があった。閏月の関係で6月が2回ある年は、近年では、1941年、1960年、1979年、1987年、2025年、2036年）
- ⑮ 昔は、長浜辺りに岩惣がプライベートビートを持っていた。

森の感想

話を聞いていると「ふーん そんなことがあったのか」と面白かったが、これでは将来に残っていないので、もったいない気がした。解説付き写真集にでもしないと忘れられるだろうと思った。

以上